

THE
NAWay
MAGAZINE

世界中で読まれているナルコティクスアノニマスの定期行物
THE INTERNATIONAL JOURNAL OF NARCOTICS ANONYMOUS



JANUARY 2010 • VOLUME TWENTY-SEVEN • NUMBER ONE
2010年1月発行 / 第27号 / 1号



世界中で読まれている
ナルコティクスアノニマスの
定期刊行物

エディター
ド・ジェンキンズ

コピー・エディター
デイヴィッド・ファルク

プロダクション・マネージャー
ファティア・ピロルト

NA Way ワークグループ
ポール・C、アラン・D、マーク・G、
ステファニー・V、スー・H、ティム・S

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700
Website: www.na.org

NA Way マガジンでは、読者のみなさんが参加されるのをお待ちしています。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしています。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールド サービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせください。

NA Way マガジンは、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクス アノニマス ワールド サービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいない。また、インターネットからNA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにeメールをいただきたい。

NA Way マガジン(The NA Way Magazine: ISSN 1046-5421)、NA Way(The NA Way)、ナルコティクス アノニマス(Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマス ワールド サービス社(19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311)によって、年に4回発行される。

編集者から、ひとこと

先月号では「家に帰るということ」が話題になり、まさにホームがあってこそ、私たちは回復するのだと思わされた。旅行や引越しをしたり、近くの町やその辺まで出かけたりと、どういときでもNAを見つけるチャンスはそれこそいっぱいある。むしろ、ミーティングを探そうとしていなくても、「回復のサイン」の方から知らせてくるかもしれない。どこへ行こうと、NAのメッセージとスピリットは必ず私たちと共にあるからだ。今月号でそのような経験がいくつか分かち合われているのは、うれしいことだ。みなさんもどこかで回復のサインを目にしたら、知らせていただきたい。

さて、今月号には、こちらの作品募集(P.17)に応じて送られてきたコミックが載っている。こうして仲間の作品をみんなで楽しめるのもまた、うれしいことだ。そして、P.4にある引用句もそれぞれにユーモラスで味わいがある。これで笑いの筋肉をウォーミングアップさせるのもいいし、あるいはメモボードをにぎやかにするのもいいだろう。

最後に今月号では、みなさんに「リビングクリーン」プロジェクトへの参加と、www.na.orgにある新しいツールの利用をうながしながら、サービスというものをいくつかの側面からじっくり考えていただき、第13回 ワールド サービス カンファレンスの開催をお知らせしていく。なにはともあれ、楽しんでいただきたい。ド・J (エディター)

インターネット版のNA Way マガジンは、印刷されているものでは読めない内容の特集記事がいくつか追加されたことによって、さらに充実したものになっている。インターネット版の予約手続きは、www.naway.orgにて受付。

今月号の掲載記事

特集記事		回復のサイン	10
・神のお使い(メッセンジャー)	3	仲間のページ	12
ユーモア	4	オビニオン	13
分かち合い		ワールド サービス カンファレンス	14
・ひとりじゃない	5	知ってた?	15
・二つのキー・タグが物語るもの	6	電話連絡とウェブサイト検索	16
・変化の波	7	『リビング クリーン』最新情報	16
・夜の訪問者たち	7	コミック「気の合う仲間」	17
ホームグループ紹介	8	カレンダー	18
サービス		NAWSの出版物 最新情報	19
・サービスに紛れ込む	9	近刊の予定	19

NA Way マガジンでは、読者のみなさんからののお便りをお待ちしています。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマスのメンバーがいることで存在する雑誌であるため、英語、ペルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そのような雑誌であるゆえの使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、「アディクトであっても、ドラッグを使うのをやめることはできるし、それによって使いたいという欲求はなくなる。どのようなアディクトであろうと、新たに生きるすべがあるからだ」というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ。

「神のお使い」をする トルネード(竜巻)・ジム

まったく、俺たちのようなアディクトが使わないでものごとを学ぶなんて、よくできるものだ。クリーンになって16年経ったころ、俺はアラバマ州のバーミングハムで仕事に就いた。緊急事態管理局で査察官として働く仕事だ。職務は、竜巻によって損害を被った人々を訪ねることだった。俺は情報を集め、報告書にまとめて提出していたのだが、その際にはまず、賠償額が災害に遭った人々の人生を立て直しやすい額になるようにと心を砕いた。回復中のアディクトである俺には、災難や災害というものがわかっていたからだ。ナルコティクス アノニマスにやってくるまで、俺の人生はまったく災難もいいところだった。ハリケーンにならって竜巻にも名前がつくのなら、俺は「トルネード・ジム」と呼ばれてもおかしきはなかったろう。自分の人生だけでなく、いろんな人の人生をメチャクチャにしたからだ。

これから話をする災害が発生するまでに、俺は1万件以上の査察をこなしていた。査察官としては一人前とみられていた。そんなある日のこと。俺は次に行う査察の指示書をひとつひとつ見直してみることにした。指示書のひとつには「慎重に扱うべき事例」と一目でわかるようにはっきり記されていた。つまり、死者が何名もいたということだ。

この時点でもう、ハイヤーパワーにすぎるしかないのはわかっていた。

その査察指示書によれば、俺は72歳のおばあさんと面談することになっていたからだ。このおばあさんは夫と孫息子を失ったのだ。

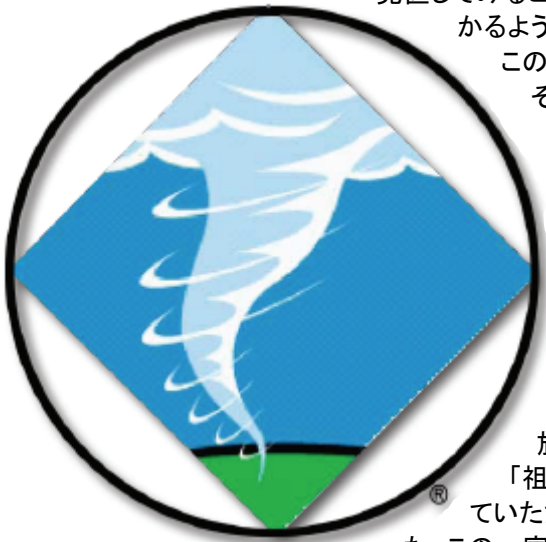
そしてさらに、隣人を4人失ったと指示書に書かれていた。俺には心の準備が必要だった。そこでもう一度、祈りを唱えた。一度祈ったくらいでは、十分とは思えなかったからだ。

そのおばあさんとの面会には、孫娘がつき添っていた。俺は孫娘から説明を受けた。それによると、竜巻が襲うなかで、祖父はリクライニング・チェアを祖母の上に覆いかぶせると、孫息子をかばって折り重なるように身を伏せたらしい。そうこうするうちに、家は竜巻によって吹き飛ばされた。孫息子も祖父も外に放り出され、木の太枝に突き刺さって亡くなったということだった。

「祖母は打ちのめされています。どうか、できるかぎり手厚く援助をしていただけないでしょうか」と孫娘は言った。俺は涙をこらえるのに苦労した。この一家の苦しみがわかったからだ。査察では、俺にできる精いっぱい

ことをした。

面談している間、このおばあさんは口をつぐんだままだったので、孫娘が代わって話をした。俺は、こちらからどのような援助が可能であるかを説明し、この一家にしてあげられることや提供できる物を一覧表にした。それで面談は終了というところで、おばあさんが口を開いた。ちょっと頼みがあるのだが、お願いできるかと言うのだ。俺はもう心底このおばあさんの役に立ちたいと思っていたので、「もちろんです」と答えた。すると、「あなたは、こんな年寄りでもハグしてくれるかしら」と言ったのだ。俺は晴れやかな気持ちになった。なにしろ、16年にもわたってNAでハグされてきたのだ。ハグは俺の天職だろう。まさにこの日、俺は神の存在を感じた。この瞬間、おばあさんは緊急事態管理局から支給される賠償金のことなど気にも留めていなかった。そっとハグしてもらうこと以外、何も望んではいなかった。俺は、この日のことを絶対に忘れないだろう。自分を神のお使い(メッセンジャー)のように感じたからだ。俺の使命はハグすることだった。ナルコティクス アノニマスによってすでに心の準備はできていたのだ。



一緒にいれば、
それだけで楽しいと
いうこともある。

スポンサーシップ
「スポンサーシップとは」

スポンサーができれば、使
わなくても自分は笑いや楽
しみを取り戻せるのだとわ
かった。

ベーシックテキスト、カミング
ホーム、「リフレクション」

神の意志を行っていく
ためには、ユーモアの
センスというものが何
よりも重要なものにな
ることがある。

NA ステップワーキングガイド、
ステップ11

私たちはおもいっき
り笑って、おもうぞ
んぶんに泣き、心ゆ
くまで回復をかみし
める。

今日だけ 8月14日

それなりの成長をとげた人た
ちはユーモアのセンスを失わ
ない…

だから、みんなと一緒に笑う
ことはあっても、だれかを笑
い者にするのではない。

今日だけ 12月10日

ひとりじゃない

私はNAにつながりはしても、長居をするつもりはなかった。使わないで生きるなんて、自分にはできるわけがないと思っていたからだ。でも、神の考えはちがっていた。それによって私は、使わないで生きるために必要なことを学んだ。気をゆるめてはならないこと。NAのメッセージに耳を傾けること。奇跡が行われるのを見逃さないこと。そして、まだ苦しんでいるアディクトたちが助かるようにと願い続けることだ。そのよい例が、昨年(2009年)の9月にあった。インディアナ州のグレイでスピーカー・ジャムが行われたときのことだ。私たちのところにも何人かのメンバーに対してスピーカーの依頼があったため、参加者がみんなそろって中西部へと飛び立つことになった。もちろん、経験と力と希望を分かち合うために行くのだけれど、シカゴに行くからには、それぞれにあそこもここも見てみたいところがあった。

グレイには、マイケル・ジャクソンの生まれ育った家がある。この家は、私ともうひとりの参加メンバーがどうしても訪れたい場所だった。そこに行けるというので、二人ともわくわくしていた。同行の参加メンバーのなかにはこの考えを好まない者もいたけれど、ひとりひとりの希望を尊重するというのでみんなの意見が一致した。なにしろ私は、マイケルの家に行くときにみんなで着られるようにと、おそろいのTシャツまで手配してあったのだ。そこで、私たちは日程を組んだが、神には別の考えがあった。現地について初日のことだ。朝食をすませると、地元のメンバーが口々に「マイケルの家はすぐそこだから、これからさっそく行ってみればいいじゃないか」と言うのだ。そうすると、おそろいのTシャツが着られない。私はがっかりしたけど、みんなと一緒に出かけることにした。

マイケルの家がある一角までくると、私はその場に圧倒されてしまった。そのあたりでは人々がうろろうして写真を撮り、物売りたちがCDやDVD、Tシャツをはじめ、さまざまなマイケルの記念グッズを売っていた。そういうなかで、物売りのひとりが通りの向こうから私たちに声をかけてきた。「あなたのTシャツには何て書いてあるんだい?」。そのTシャツを着ていた仲間は「『ひとりじゃない』って書いてあるのさ」と言い、アディクトがNAで回復することと切り離せない言葉だと説明した。物売りの男は立ち止まって数秒のあいだ私たちをまじまじと見つめてから、通りを渡ってやってくると「俺は、デイヴィッドだ」と言った。「10年クリーンでいたんだけど、そこでまた元に戻ってな、それから10年使っていたんだ。でも、それも3日前までのことさ。今日で3日間クリーンでいるんだからな」。そして、女房も13年クリーンでいたのに自分と一緒に元に戻ってしまい、長い間使わずにいられなかったが、やっと2日前にクリーンになったと話した。

その場には、愛と希望というNAのスピリットが息づいていた。私たちはみんなでこの男を抱きしめて自己紹介をし、明日のスピーカー・ジャムにも誘い、一緒に何枚か写真を撮った。そしてそれぞれ、自分たちがここに来た目的について考えた。ここにある有名人の家を訪れるためだったはずが、いざ来てみると、ひとりのアディクトに手を差しのべてながしかの希望を分かち合っていた。ホームを遠くあとにして、ミニバンに乗ったアディクトの一団があの一角の奥にある家を訪れるというのは、神のはからいだったのだ。そうやって私たちは、NAのメッセージを分かち合うことになっていた。たとえそこが行き止まりであろうと、希望はあるからだ。

ミニバンが走り出しても、みんな黙りこくっていた。それぞれにあの男の痛みが胸にこたえていたし、この一日が自分たちにとってどういうものであったかがはっきりしてくることで、神妙な気持ちにもなっていた。そして、私はそっと自分に言い聞かせた。「気をゆるめないで、NAのメッセージに耳を傾け、NAプログラムのもたらす奇跡に目を凝らし、まだ苦しんでいるアディクトが助かることを願い続けよう・・・」



カリフォルニアでの話

私はついこのあいだ、末の弟の用事で生まれ故郷に行ってきた。弟は重度の脳性麻痺で、生まれつき身体が自由がきかない。その健康状態が悪化してしまったので、ホスピスのサービスが受けられるように手配しなければならなかった。言うまでもなく、このような旅は気が重い。場合によっては心を鬼にして話し合わなければならないだろう。そうやって、この末の弟がもう長くはないという現実に向き合うのは辛いことだ

しかも、現地につくまでが大変だった。機械系統の問題や天候による遅れが生じたり、乗り継ぎ便を逃したりと、到着が予定より10時間も遅れたのだ。これでも、滞在中にミーティングに出席する時間はないことになった。それでも、なんとか娘の家に着き、4人の孫から温かいもてなしを受けて元気を取り戻した。

弟には、帰る日の朝に弟の行きつけのレストランで会い、これからのことを説明することができた。弟は、私の話を喜んで聞いたわけではないにしろ、成り行きにまかせるといった意志を示した。私たちは、弟の求めるままに別れのキスを交わしたが、これほどの思いで別れを惜しむことは長らくなかった。

そして、帰路も長い道のりだった。飛行機は雨のなか、ロスアンジェルス国際空港に着陸した。ジトジト降る雨は、私の気分ぴったりであった。今回の帰省は、これまででももっとも過酷な週末旅行のひとつであったため、感情的にも身体的にも疲れきっていた。私は手荷物受け取りコンベヤーのところに行き、スーツケースをひっくり返して自分のものかどうか調べた。そこで、荷物に手を伸ばしたときのことだ。私の驚きを想像してほしい。私はここ何年にもわたって、白地にNAと書かれたキータグを荷物の識別札にしているのだが、そのタグに、ロスアンジェルスに到着するまでのどこかで黒いキータグが付け加えられていたのだ。私は二つ重なったキータグを携帯で写すと、「どこにでも仲間がいる」というタイトルを添えて、自分が利用しているソーシャル・ネットワーキングのページに転送した。

次の日になって、ミズーリの仲間から知らせが入った。昨夜のミーティングで、空港の荷物係をしているメンバーが仕事に白いキータグのついた手荷物を目にしたという話をしていたというのだ。旅の終わりにスーツケースの持ち主がどんな反応をするかと考えながら、自分のもっている黒いキータグのひとつを取りつけないきさつを詳しく話したらしい。2、3週間後には、この荷物係のメンバーと連絡がいたので、私は感謝の気持ちを伝えることができた。このメンバーのおかげで、回復はつねに手の届くところにあるということ、自分はひとりではないということ思い出させてもらったのだ。

ボブ(アメリカ合衆国／カリフォルニア)

二つのキータグが物語るもの



ミズーリでの話

それは明け方の4時近くのことだった。おれは空港勤務で、同僚に代わって夜勤についていたんだが、まったくヤバい状態になっていた。友だちがひとり、死にしまったし・・・それもあってこの1、2ヶ月荒れまくってた。そういう自分に嫌気がさしてすっかり落ち込んでたんだ。

おれは、どでかいベルト・コンベヤーの方に向かって行った。そこには乗客全員の手荷物が待機していた。その朝の便は満員だったので、コンベヤーはすし詰め状態だった。おれはボスの横に立ってコンベヤーに載った荷物を振り分けていた(ボスはNAメンバーじゃないが、おれがメンバーだってことは知ってるんだ)。すると、そこに、白いキータグのついたスーツケースがあるじゃないか。

「おいっ、おい、おい、ほら！ 見ろよ、こんなのがあったぞ！」おれは思わず、叫んでいた。そして名札を見ようと、そのスーツケースをコンベヤーから引き出した。たぶん知ってる仲間のだれかだろうと思ったんだ。名札に書かれていたのは見覚えのない名前だったが、でも、そのスーツケースの行き着く先はロスアンジェルス国際空港だってことも、だれだかわからない仲間の名前はカリフォルニアのボブだってこともわかった。そこでおれはボスに言った。「おれのタグをひとつ取ってくる。こいつの荷物にくっつけてやるんだ」。

「俺ならそんなことはしないな」とボスが言い返した。

だから言ってやったよ。「わかってるよ。あんたはやるんだらうさ。でも、おれはやるんだ」ってね。

「ロスアンジェルスについて、おれのタグがついているってわかったら、そいつはなんとも愉快な気分になるさ！」おれはスーツケースをコンベヤーに戻し、キータグを取りに駆け出した。それで、戻ってみると、スーツケースがないじゃないか。やれやれ、ふりだしかよ、と探し始めたところで、「ほら、あそこだ、あそこ！ 一回りして戻ってきたぞ！」って叫んでるやつがいる。何だよ、ボスじゃないか。

自分の黒いキータグを取り付けながら、おれは思ったね。NAで回復しつつある手荷物係は、おれだけじゃないだろうから、ロスアンジェルス国際空港で働いている仲間も、この二つのタグに目を留めるぞってさ。スーツケースをコンベヤーに戻したときには、最高に幸せな気分になってた。あんなにヤバい状態だったのにな。でも、あの白いキータグを目にしたことと、その持ち主がおれのキータグを目にしたときの反応を想像することで、心が動かされたんだ。

その日、後になって、おれはそのいきさつをミーティングで話した。そしたらミーティングの後で、ひとりの仲間がこう言うんだ。自分の知り合いの女性が、友人のソーシャル・ネットワーキングのページで例のスーツケースの写真を見たってね。おれはコンピューターを持ってないんで、その女性の家に行き、例のスーツケースにくっついた二つのキータグの写真を見せてもらったんだ。なんと、その写真には、世界中の回復しつつあるアディクトたちのコメントが40もくっついてるじゃないか。おれはヤワな人間じゃないけど、あの写真を見つめたまま、そこに突っ立って泣いてたよ。おれはさ、仲間をちょっと笑わせてやろうって思ったんだけど、こんなに受けるとはね。まあ、それはさておき、おれにもまた友だちができた。そいつのことは「キータグ・ボブ」って呼んでるんだ。

ロイド・L(アメリカ合衆国／ミズーリ)

変化の波

私は、神も仏もないという思いでNAにたどり着いた。だからこそ、神は助けてやろうと思ったのか。それとも、自分の方でも本当は神に助けてもらいたいと思っていたのか。私にはわからなかった。それでも「信じるようになる」ために努力していると、他の仲間たちから信じているかのように行動してみなさいと言われた。私は天を仰いで、「こんなことで信じられるようになるのだろうか」と思ったものだ。

ある日の午後、海辺に座って信じるようになろうとしていたら、ココナッツの実がひとつ波間を漂うのが見えた。波に押しやられて海に沈み、岸に戻されては、また波にさらわれる。あのココナッツは、私だ。ああやって私は、アディクションという海によって人生をメチャクチャにされてしまったのだ。ココナッツが自力で海から上がるのは不可能だった。ココナッツを水中から助け出すには、何者かの手が必要だった。私が初めてハイヤーパワーと出会ったのは、そういうことだった。

私には、自分がまともに生きようとしなければ、ハイヤーパワーの助けが無駄になるということがわかった。だが、いつになったらまともになれるのか。まともになるというのは、スピリチュアルに目覚めるのと同じようなものだ。段階を踏んでいくものではなく、いきなり起こるものではない。だから、私の人生に起きている小さな変化はひとつひとつが交通標識であり、それがあれば私は迷うことがない。たとえば、電気代の請求書を引き出しに放り込んだままにしたりせず、きちんと支払ったこと。たとえば、電話で行けないと言いつつに、子供たちの成績表をもらいに学校まで行ったこと。たとえば、元に戻って再び使うのではなく、助けを求めて電話したこと。そうやって、これまでできなかったことが初めてできたときに、私は正しい道を歩んでいるのがわかった。

そして、このような行動からはつねに、これまでの人生がどのようなものであったかという事実と正面から向き合う強さが生まれた。自分が使わなければいられなかったことも、そのせいで生じたもろもろのできごと、正視することで辛く絶望的な思いをしなればならないが、恐怖ではなくなった。私は、自分がひとつひとつの状況にどのように関わっていたのかを理解した。それは神もお見通しだったのだから、神に対して認めるのは無理難題になるわけがない。だが、自分と同じ人間に対して自分のしてきたことを全部認めるためには、謙虚さがどうしても必要になる。ここで、問題が生じた。赤の

他人に自分が一体どういう人間であるかを話すのは、まさに無理難題のような気がしたのだ。それでも私はNAで手にするはずのものをほしいたいと思い、行動していくことにした。だが、実際には私の考えとはまったく逆で、このステップを踏むことで私は傷つくこともなく、むしろほっとした。おかげで、私は自分の欠点を善悪の面から判断してハイヤーパワーにゆだねられるようになった。こうして謙虚になることで、自分が傷つけた人たちに会っても罪悪感にさいなまれることがなくなった。これから自分が変わっていくことによって人ともうまくつきあえるだろうし、支払いもきちんと済ませることができるようになるから、もう危機的状況に陥ることはないと思えるようになったからだ。

私は、自分が理解する神とのふれあいを失わないようにしている。今の私にわかるのは、かつて人生が幸せなものであったころに信じていた神のことだ。子どもじみているが、その方がつきあやすい。それでうまくいっているし、何年もクリーンでいられるのだ。

今になってみると、私の人生には変化の波がいくつもあったことがわかる。それによって私がスピリチュアルに目覚めたのはまちがいない。それは、心のあり方に何よりもはっきりと表れている。神は約束どおり、私を人の役に立って幸せに生きられようとしてくださったので、私は感謝して生きている。だが、この感謝の気持ちと、何もかもがNAプログラムのおかげだという事実は、どうやって示せばよいのか。サービスを通してである。サービスをしていれば、忍耐、明け渡し、謙虚、健全な判断、気づきなどの原理を実践することができる。グループでのサービスとNAのサービス機構によって、私にはまさに良心というものが芽生えた。そして、信頼されるしもべであるからにはステップと伝統を実践することが重要だ。私たちはあくまでも良心やスピリチュアルな目覚めにもとづいて物ごとを決めるのであって、個人的な好き嫌いで決着をつけるのではないからだ。そのためにも、みんなで話し合っただけでなく、お互いが納得して決定にいたることが大切だ。このようなやり方をすれば、私たちひとりひとりが経験するスピリチュアルな目覚めは、NAという仲間の集まりの成長に貢献することができるのだ。

マリエロス・P
(グアテマラ/グアテマラ市)

夜の訪問者たち

ある夜のことで。僕は、ミーティングが終わって仲間を送っていくところだった。雨のハイウェイを走りながら僕たちがNAのことを話していると、なんと、一台のバンが真横にピタッと寄せてくるのではないかと。助手席の仲間は、僕の友達がふざけてやっているのだろうと思っただけで、僕は何かがおきたのか考えることすらできなかった。

すると、バンの窓がするすると開き、中の連中がこちらに向かって怒鳴った。「おい、トロントのミーティング案内の電話番号を教えてください」「えっ、何だって」と、怒鳴り返すと、「トロントのミーティング案内サービスの番号を知りたいんだよ」と怒鳴る。「ちょっと、待ってくれ」と言ったものの、さすがに驚いた。「僕はいつも、車にミーティング・リストを置いてるんだ」。だが、この日にかぎって、置いてなかった。僕ははいつたん、ハイウェイに車を止めた。トランクを調べたが、そこにおいてあった地域のミーティング・リストもやはり、前日に家に戻してしまっていた。そこで助手席の仲間が何人かに電話をして、やっと、バンの連中に番号を教えてやることになった。

僕らは雨の降るなかを、そのままちょっと立ち話をして、写真を撮り合った。こんなことって、あるんだ…僕は鳥肌が立ってしまった。バンに乗っていたのは僕らと同じアディクトと、その父親だった。ふたりとも外国からの訪問者である。カナダにきて、僕の車の後ろを走っていたらバンパーのステッカーが目に入り、そこに「この車は、ミーティング会場のあるところでは必ず止まります」と書いてあったというわけだ。下の写真をみてほしい。NAのサービスのシンボル・ステッカーが張ってあるだろう。このステッカーのおかげで、僕は外国から来た仲間と出会った。しかも、その仲間がミーティングに出られるように手助けまでした。まったく、ナルコティクス アノニマスって、愉快なところだよ。

ヘンリー・W(カナダ/オンタリオ)



ホームグループ紹介

NAWayでは、さまざまなNAグループからミーティング会場の写真が送られてくるのをお待ちしている。ミーティングの進行表や回復に関する文献、ポスター類、汚れたコーヒーカップなど、そこが「仲間の居場所になっている」とわかるものであれば喜んで掲載させていただきます。ただし、集まっているメンバーがどこのだれとわかる写真はご遠慮いただきたい。なお、写真には、グループの名称、所在地および国名はもちろん、グループができてからどのくらい経つのか、ミーティングの形式はどうなっているか(スピーカーミーティング、全員で分かち合うミーティング、その他)など、グループの紹介文を添えていただくようお願いする。



狭いながらも、楽しい 「我が家」

このグループは、サルプスボルグ市の中心部にある防空壕で週3回ミーティングを開いていることから、NAサルプスボルグあるいはNASAという愛称で呼ばれている。ミーティング会場になっている防空壕は、市の中央バスターミナルのすぐ横。何年も前に、サルプスボルグ市長によって自助グループの利用が許可されたため、僕たちは2001年の11月5日からここでずっとミーティングを開いている。ただし、市では防災上の理由から施設の設備改修を行う必要があるため、そのあいだ1週間は使えない。それがなければ、月、火、土の夜にはここで仲間に会えるんだ。

NAのキータグがかかっている木製のラックは、ノルウェー山脈をかなり登ったところで見つけた木をわざわざ持ち帰って作ったもの。メンバーのひとりが、スウェーデンのあるミーティング会場で同じようなラックを見て、よし、自分もホームのために作ってみようと思ったというわけだ。グループでクリーンタイムを祝うときには、タグを手渡す役目のメンバーがこのラックの前に立つ。ちょっと儀式めいてるけど、それがまたいい。なにしろ、こうやってキータグが渡されるたびに、僕たちは「本当に使わないで生きられるようになったんだ」ってわかるからだ。そして、手渡される前には部屋を一回りするの、仲間がそれぞれに愛と思いやりの気持ちを「込める」ことができる。

僕たちのグループでは、地元のアディクトに手を差し伸べるためにNASAの「ミーティング・スケジュール・カード」を作ってみたところ、実に効果があった。生活保護課などさまざまな社会保障機関でこのカードを手に入れたというアディクトたちが、ミーティングに来るようになった。そのほかにも、グループで清涼飲料水の販売と缶の回収を行っている。このリサイクルによる収入は「伝統7」の献金にしているが、だからといって仲間からの献金が少なくて困っているということではない。

とにかく、この世で我が家に勝るものはないのだから、これからもNASAがそう思えるグループであり続けるようにみんなで一生涯懸命努力している。この防空壕の壁に貼ってある小さな写真にも書いてあるが、「狭いながらも、楽しい我が家」とはよく言ったものだ。

ペル・アクセル・L(ノルウェイ/サルプスボルグ)

サービスに 紛れ込む

サービス活動をしていても、いつのまにか本来の目的からそれていたということがよくある。それは、自分たちのしていることの意味も理由も、あっさり忘れてしまいがちだということでもある。では、私たちは一体だれのためにサービス活動をしているのか……これからつながる仲間、また苦しんでいるアディクトのために決まっている。とにもかくにも、NAの回復のメッセージを運ぶことこそ、私たちの本来の目的なのだ。

5月にテキサスの南東部で行われた全国サービス委員会では、こんなことがあった。つながりたてのメンバーが「偶然に」紛れ込んでいたのだ。その日、私たちはテキサス州のボーモントにある会場に早めに着いた。この会場には、一目散に駆けつけたいくなるようなものがあったからだ。この年に4回行われるRSC(全国サービス委員会)のために、ボーモントエリアのサービス委員会がとびきりおいしい朝食をふるまうことになっていたのである。会場に入っていくと、20代そこそこの仲間がなんだかさえない顔をして、並べられたテーブルのひとつにぼつんと座っていた。これまで他のRSCで会ったおぼえがなかったの、私はこの仲間のところへ行って自己紹介をし、どこのASC(エリアサービス委員会)で活動しているのかと訪ねた。すると、相手は同じように自己紹介をしたあとで、ASCって何のことだと言った。念のため、RSCに出席するために来たのではないのかと訪ねてみると、やはり、RSCって何のことだと言う。そこで私は、ASCとRSCがそれぞれどういうもので、今日はここで何が行われるかということを説明してから、どういいうきさつでここへ来たのかと訪ねた。それによると、仲間のひとりがこの仲間のためにミーティング案内を調べていたら、自宅から歩いて行ける距離で午前9時からやっているミーティングが見つかった。それがここだったというわけだ。この仲間も、ミーティングを探してくれた仲間も、ここで行われるのはサービスミーティングであって、通常のミーティングではないということがわかっていなかったのだ。

そうやってここに来たのはいいけれど、この新しい仲間はクリーンになってからまだ1日しか経っていないというではないか。私たちは、ともかくここにじっとしているようにと言った。そうすれば朝食とランチが食べ放題だし、使うこともない。それで、2日間はクリーンでいられるのだ。結局、この新しい仲間は午後2時までいて、いったん昼寝をしに家に帰ったが、その日の夜に同じ会場で行われるミーティングに出席するために戻ってくるつもりでいた。私と同じ地区の地域委員がこの新しい仲間、『ベーシックテキスト』を一冊貸し与え、私も白いキータグとミーティング案内のほかにNAの出版物を何種類か進呈した。その『ベーシックテキスト』が会場をひとめぐりし、委員会のメンバーひとりひとりによって励ましの言葉や電話番号が添えられると、この新しい仲間は涙ぐんでいた。RSCはつながりたてのメンバーが聞いていてもわかるように進められた。会議であるのに笑い声や笑顔が絶えず、スピリチュアルなものが感じられることに、この新しい仲間は驚きを隠せないでいた。そこで、私は言った。「いつもいつもこんなにスピリチュアルであるというわけじゃないんだよ。でも、今日は、ここに君のような新しい仲間がいる。そのおかげで新しい仲間は君だけじゃないってこともわかる。だから私たちは、自分がサービスに携わるということについても、みんなでこのような場に集まる目的についても、真剣に考えずににはいられないんだよ」。

この新しい仲間は、今日のRSCの参加者だけでも数百年分のクリーンタイムになるという事実を胸につかれた様子で、このプログラムが生かされているのを目の当たりにするチャンスが与えられたことは、本当にありがたいことだと言った。そして、「こういうことが本当に役立つんですね」という言葉には力がこもっていた。その日、遅くになって私は、この新しい仲間が人の役に立とうとしているのを目にした。ホームの仲間が車に荷物を運び込むのに手助けを必要としていたのだ。私が「一人前のサービス・ジャンキー」になるのも時間の問題だろうと言うと、この新しい仲間はにっこり笑って「人の役に立って、気持ちいいですからね」と言った。

そういうわけで、この5月の火曜に行われたRSCではいつになくすんなりと議事が進行したのだ。この新しい仲間には、心から感謝しつつ、どうかこのまま歩みを止めないでほしいと願う。

アノニマス(アメリカ合衆国/テキサス)

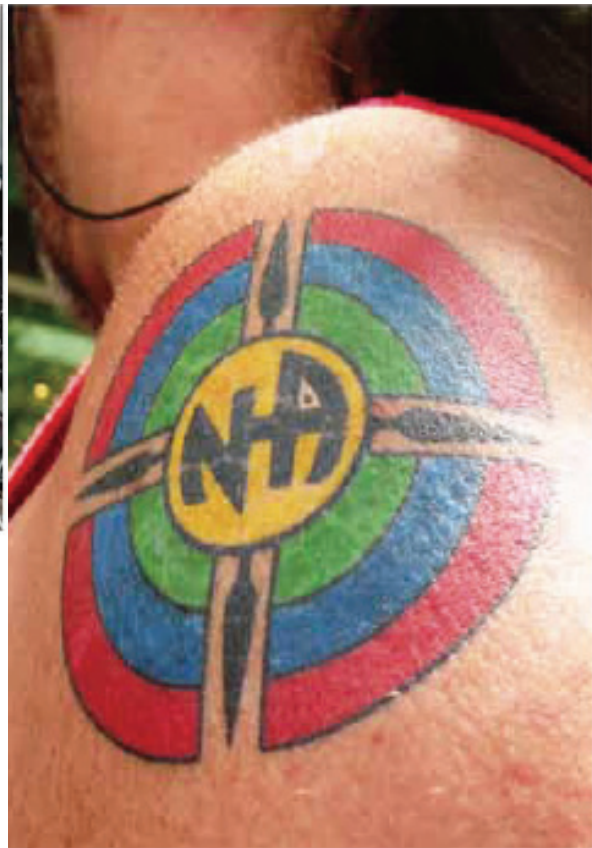
キャンバス・バッグ —
「愛をかたちにするのは、私たちだ」コロンビア



壁に「ベーシック リビング ルーム」と書かれた部屋 —
エリオット・L(アメリカ合衆国／ニューヨーク)



バイクとヘルメット —
ウスチ・M、ポツカラまで遠乗りした帰り(ネパール)



刺青したグループのロゴ — アノニマス、WSCJに参加した仲間(アメリカ合衆国／カリフォルニア)

「アディクト・オン・アスファルト」と書かれたバス、バイク、テント。
—— 中部アメリカ・ニュースレター(アメリカ合衆国／カンザス)



SIGNS OF RECOVERY 回復のサイン



ドラム・セット - アノニマス

NAワールド サービス オフィスの壁にかかっている「NAキルト」
 - あるスペシャル ワーカーの母親による作品(アメリカ合衆国/カリフォルニア)



バイクのキー・タグ



「私たちの自由、私たちの責任 WSC2008」と書かれたキャンパス・バッグ



壁に「なぜどのように効果があるのか」と書かれているベッドルーム
 - エリオット・L(アメリカ合衆国/ニューヨーク)

ミステリーサークル「回復しつつあるアディクトたちと交信する」
 - デイヴ・H(アメリカ合衆国/ミシガン)



Our members write

NA members online

I noticed a few weeks ago that a friend's page on a social networking site includes applications like one called "spirituality," which, when accessed, displays all kinds of pictures with NA logos included that you can send to your friends on the site. Is that okay?

I was recently invited to join an NA group on a social networking site, which would make my name and photo available in connection with NA to millions of people.

It bothers me when people use social networking sites as a platform to talk about their recovery or break their (or others') anonymity by posting photos.

NA World Services does not have guidelines for individuals to follow as they use websites or social networking pages, applications, groups/causes, or events. Although some of these sites are less public than others, it may still be difficult to ensure anonymity once material is posted on a member's page. It is also important to keep in mind that the Internet is a public place and anything posted there could affect NA's public image. While our Eleventh Tradition was written many years before we had a medium like the Internet, the spirit of that tradition can most certainly be applied in our online affairs. We encourage members to read the Eleventh Tradition essay from *It Works: How and Why* and use that as a guiding resource.

Care should also be taken to refrain from placing any of NA's copyrighted or trademarked material on the site. Individual NA members do not have the legal right to reproduce these restricted materials. With that said, many members are not aware that the NA Fellowship decided that use of NA registered logos is to be limited to NA groups and service committees. We would ask all NA members to respect the group conscience of the fellowship and refrain from posting NA trademarks and logos.

Further thoughts and information on this topic can be found in Chapters Two and Ten of the *Public Relations Handbook*, which is available online at <http://www.na.org/?ID=PR-index>, and in the *Fellowship Intellectual Property Trust* at <http://www.na.org/?ID=legal-bulletins-fipt>.



Dear NA Way Magazine:

My name is Otis G from Philadelphia. I read the story from Jeff R in *The NA Way Magazine* (October 2009) and, yes, I had the experience of listening to what must have been the same caller. He told me his wife and daughter were killed by a drunk driver. He said he had 26 years clean and that he didn't want to use. Being a trusted servant, I made some calls, and three or four addicts were there to support the caller. God was with us that day. We did our part.

Three months later I received a call from someone who was outside of Philadelphia, and it was the same story. (Isn't it great that we can remember things now?) Wow! I called him back and asked if we had spoken via the NA phonenumber before. He hung up.

I prayed for the caller, and I will continue to pray for him. We cannot deny other addicts their pain, but we can carry the message of hope. I'm grateful we were there in spite of the caller's reputation. In the meantime, we, too, have informed other regions and phonenumber volunteers.

With love and respect,

Otis G, Pennsylvania, USA

新鮮さを失わないこと

コンベンションのスピーカー選考の手続きについては、ここ何年にもわたり、仲間がミーティングのあとでおしゃべりを楽しむような場でも話題になることが多くなっている。ここでは、いくつか問題点をとりあげて検討してみたい。2年おきに発行されるカンファレンス アジェンダ レポートの「イシュー ディスカッション トピックス」のように、この記事によって仲間の関心が高まれば、NA全体の良心による解決策が示されていくにちがいないからだ。以下の質問は、北米で開かれるコンベンションの半数以上で毎年同じ人がメインスピーカーを務めているという現状に対して、私たちが問いかけてきたものであり、実際に耳にしているものでもある。

- どこに目新しさがあるのか。 回復のメッセージを運ぶのに「ふさわしい」メンバーというのは、これだけしかないのか。
- なぜ、実行委員会の撰ぶスピーカーはいつも同じ顔ぶれになるのだろうか。
- なぜ、この常連のスピーカーたちはほとんどが、同じスポンサーシップの仲間内で撰ばれるのか。そして、実行委員会がやはり同じスポンサーシップのメンバーで固められるのはなぜか。
- ほとんどのコンベンションで、テープ、CD、MP3などがアダクトの分かち合いに欠かせないものとなっているのはなぜか。
- NAのサービス活動やその他大勢のメンバーの紹介よりも、選ばれたメンバーの話を録音したものが尊重されるのはなぜか。
- 自分のテープをわざわざ聴かせようとするのは、NAのためになるのか。それとも、エゴによる行為であるため、神の意志と自分の意志とが真っ向から対立することになるのか。
- コンベンションでスピーカーをするのは、NAへの奉仕なのか、特権なのか。
- コンベンションがあるたびにスピーカーを頼まれるメンバーは、なぜ、あっさり引き受けてしまうのか。どうして、たまには他の人の話に耳を傾けてみようと思わないのか。

私たちは2人ともWCNA 32 (第32回ワールドコンベンション)のワークショップに参加し、スピーカーとして分かち合う幸運に恵まれた(参加に対して、テープの押し売りはなかった)。そしてそこにいる間に、たくさんのアダクトから新鮮でさまざまに異なる回復のメッセージを伝えてもらった。ほとんどが初めて見るスピーカーであったが、そのメッセージはどれも私たちの心を強く揺さぶった。だから、WCNA のワークショップでは、テープなどに録音されたものだけでなく、NAでのサービス活動の経験や、その他大勢のNAメンバーの推薦も参考にしてスピーカーを選んでいると聞いても、驚きはしなかった。たしかに、話し方がうまければ、聴く人はあきないし共感もしやすい。だが、NAのメッセージの真価は、経験と力と希望が分かち合われるということに尽きる。これをしっかり踏まえていなければ、どれほど意気込み、声を大にし、話し方を磨き、くどくど述べたようと、NAのメッセージは失われてしまうのだ。

もちろん、何年にもわたって常連のように分かち合ってきたスピーカーたちの回復や、そういうスピーカーたちの運ぶメッセージを見くびるつもりはない。あくまで、スピーカーの選び方を問題にしているのだ。現に、私たちは2人ともどういうわけか、何年にもわたって多くのコンベンションで分かち合うという光栄に浴してきた。だからもうこのへんで、WCNAのようにフレッシュで活力のあるメッセージを伝えてくれるコンベンションが増えてもよいのではないかと思うだけである。ベーシック テキストには「アダクションからの回復のメッセージがシンプルで正直なものであれば、真意は伝わる」と書かれている。この記事が変化の声をうながし、個人より原理が優先するという12番目の伝統を守っていく助けになれば幸いである。

ジェシカ・Nならびにジェームズ・R(アメリカ合衆国/ニューヨーク)



ワールド サービス カンファレンス (WSC) は、会議という枠にはおさまりきれないものである。世界中のNAで問題となっているさまざまな事柄について、NA全体の考えをひとつにしようと全世界から仲間が集まる場になっていることから、WSCにはイベントという面がある。ここで2年おきに、各国のリージョナル デリゲート (RD、代表) と、ワールド ボード、ワールド サービス オフィスのエグゼクティブ ディレクターが集まり、NAという仲間の集まりにとって重要な問題をとりあげながら、ひとつひとつNAの12の伝統と概念にそって話しあう。だが、これはリージョン (アメリカ以外では一つの国がひとつのリージョンになっている) の寄り合いなどではない。WSCで問題にされる事柄は、それぞれのリージョンで抱える問題を合わせたぐらいでは追いつかないほど大きな問題なのだ。それを、世界中の仲間が集まって話しあうことで、NA全体の共通の福利がもたらされる。そのような場であることから、WSCにはフォーラムという面もある。つまり、ワールド サービス カンファレンス が目指しているのは、NAという集まりを支援するものでありながら、自らのすべきことをはっきりとさせたうえで、世界に広がる ナルコティクス アノニマス 全体のグループの良心に従って行動することなのだ。

カンファレンス アジェンダ レポート (CAR) には、リージョンとワールド ボードによる提案と動議が収められている。いずれも、NA全体のグループの良心をまとめるに当たってたたき台とするように示されたものであり、WSCで話し合われる議題になる。ここにはさらに、それぞれの動議が財政面で及ぼす影響について、ワールド ボードによる提言や意見が盛り込まれている。CAR は、カンファレンスの出席者と各リージョンに宛てて、一部ずつ郵送される。ただし、NAメンバーであれば、印刷製本と配布のコストをもとにして値段が決まった時点で追加の何部かをWSOから入手することもできる (今年は、USドルで8ドルになっている)。CAR にはこのほか、ワールド サービスでよく用いられることになっている言葉をよく知らないメンバーたちのために、用語集が収められている。



カンファレンス アブルーパルトラック (CAT) は、カンファレンス開催に先んじて、1月に出席者に郵送される。過去には、このような資料が全部 CARに収められていた。それに対して、CARを、NAグループが本来すべきことやしなければならぬことにもっと関係のあるものにしてほしいという要望があった。CATはそのような要望に応じて生まれたものであるため、サービス、戦略的計画の立案、プロジェクトプラン、予算に関する資料が盛り込まれるようになった。そしてこれを要約したものが、CARにも収められている。

カンファレンス レポート は毎回、WSCの開催される直前に公表されるもので、これを読むと重要なプロジェクトをはじめ、努力目標となっているものと達成されたもの、新たな取り組みへの提案などについて、それぞれの進展状況がわかるようになっている。そのほか、各国のRDによって提出されるリージョナルレポートも収められていて、これを読むとそれぞれのリージョンのことがわかるようになっている。たとえば、グループとミーティングの数、サービス活動やさまざまな課題のほか、自分たちだけでなく他のリージョンやワールドサービスにも有益だと思われる経験などが書かれているからだ。さらにまた、ゾーナル フォーラム (註: いくつかのリージョンが集まってゾーンを作る、日本はアジアパシフィックリージョンに所属している) でも、配布用のレポートを書いて提出することがある。





Did you know... 知ってた？

ワールド サービス カンファレンス は・・・

- ❖ 2年おきに開かれる。
- ❖ 4月の最後の週に、ワールド サービス オフィス から半径75マイル以内のところで開催される。
- ❖ リージョナル デリゲートとワールド ボードのメンバー、NAWSエグゼクティブ ディレクターによって構成されている。
- ❖ 上記の構成メンバーのほかに、ヒューマン リゾース パネルと、WSC コーファシリテーターを2名まで招くことになっている。
- ❖ 1976年に、アメリカ合衆国のカリフォルニア州ベンチュラで初めて開催された。
- ❖ オリエンテーションを兼ねたコミュニティー ビルディング セッションにはじまり、これまでの課題とこれからの課題、各種報告ならびにプレゼンテーション、対話形式のワークショップ、選挙や投票による決定、新しいプロジェクトの企画や案、と実に盛り沢山の内容になっている。活発な話し合いがあり、歌声や励ましがあ、そしてもちろん回復のある場なのだ。



第30回 ワールド サービス カンファレンス

私たちの未来像 - 私たちの将来

2010年4月25日～5月1日

アメリカ合衆国カリフォルニア州ウッドランドヒルズ

現在取り組んでいるプロジェクト

- ❖ リビング クリーン (使わないで生きる)
 - ❖ 私たちのサービス機構
- ❖ 回復していくなかで病に襲われたら
 - ❖ 経済的な自立

上記のプロジェクトに関する最新情報の入手
および

カンファレンス アジェンダ レポートの閲覧や購入

については

NAのウェブサイト

WSC関連ページをご覧ください。

<http://www.na.org/conference>

Service discussions @ www.na.org

(NAのホームページでできるサービス ディスカッション)

分かち合うか、求めるか・・・

サービスに関する経験と力と希望については、
<http://dis.na.org/sevvdisc/> をご覧ください。

このページでは、サービス全般についてはもちろん、リージョナル サービスや、特定の事柄を目的とするサービス(各種イベント開催、H&I、ウェブサイト運営、社会復帰支援など)についても、意見交換ができるようになっています。

こんなページも、ある・・・

ニュースレター サービス ディスカッション

<http://dis.na.org/servdisc/forumdisplay.php?f=25>

ご意見募集:

www.na.org のサービスディスカッションページをこうやって利用しているという**実例**や、あるいはこんなふうに利用できたらいいの**に**という**要望**があれば、ぜひお聞かせください。このほか、このサイトに求めることや分かち合っていること、知りたいのに載っていないこと、そしてNAメンバーとしてサービスに関わるうえでもっとも役立っていることについても、eメールをお待ちしています。
naway@na.org

Phonelines and website search at www.na.org

In November we launched a new version of the local NA phonenumber and website search application at <http://www.na.org/?ID=phonenumber>. It is quick and easy to use.

We want to develop something as user-friendly, if not more so, for the meeting search, but we need your help. A significant portion of the meeting information we have is incorrect or unusable due to the addresses we have on file. There is an old saying about databases: "Garbage in, garbage out." This means that the information a website visitor finds can only be as good as the information provided.

We have implemented a number of ways to make it easier for local web servants to get us the updated meeting data. Over the next few months we will start a campaign to clean up the information we have in our database about NA meetings; however, we cannot be successful without you. For more information about how you can help, please contact fsteam@na.org, and stay tuned for updates about this project. Thanks for your willingness, as always, to help us!

Living Clean The Journey Continues



We are still gathering source material for this book-length project and we encourage all members to offer their experience, strength, and hope with living the program. You can get your material to us in a variety of ways:

Discussion Board at: <http://naws.org/lc/index.php>

Email at: LivingClean@na.org

Postal mail to:

NA World Services; Living Clean;

Box 9999; Van Nuys, CA 91409

Fax: 818.700.0700

You can learn more about the project at:

http://www.na.org/?ID=Living_Clean_Project

Review and Input

Our second review and input period is scheduled for 1 April – 30 June 2010, and will include the chapters "Living Spiritually," "Our Physical Selves," and "Relationships." We hope this advance notice will maximize the number of members participating in the review and input process.

*We are
recovering in the
here and now
and the future
becomes an
exciting journey.*

Basic Text

www.na.org/?ID=Living_Clean_Project
livingclean@na.org
www.na.org

作品募集中

今月は、カリフォルニアのマイク・Cによる作品を紹介しよう。マイクは「キータグをもじって」キャラクターを作ってくれた。ほかにもまだ、キャラクターやアイデアを送ってくれようとしている仲間がたくさんいるだろうから、こちらとしても締め切りは設けていない。NAメンバーであればだれでもOKなので、いつでも気が向いたらコミックの原稿を送っていただきたい。もちろん、コミックだけでなく、回復に関する写真やイラストが送られてくるのも楽しみにしている。(ただし、仲間の写真は掲載できないことをお忘れなく)。

作品の提出については、3通りある。電子文書(jpg. Png. Pdf. など)にして、naway@na.org宛に「NA WAY 投稿欄」/「作品募集中」という件名で送信する。あるいは、818.700.0700, attnで「NA WAY 投稿欄」宛にFAXするか、PO Box 9999 Van Nuys, CA 91409 で「NA WAY 投稿欄」宛に郵送してもよい。いずれにしても、提出されたものは必ず掲載に向けて検討されるため、場合によっては修正または編集が必要とされることもある。なお、インターネットでNA Wayを読んでいる仲間はそのまま「The Authors Release Form」のページにリンクできるので、そこにある著作権の譲渡に関する書類に目を通していただきたい。雑誌になったNA Wayを読んでいる仲間もwww.naway.org にアクセスしていただければ、同じように詳しいことがわかるようになっている。



気の合う仲間 「不幸はひとりじゃ楽しめない」

Tagged

"Misery loves company"

volume 1 - no. 1



Mike C. California, USA



CALENDAR

occurring between publication dates are printed according to the schedule below. To enter events or

Multi-day events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule below. To enter events or to access event details, visit the online calendar at: www.na.org/?ID?=comingup-toc. (If you don't have Internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA Way; or The NA Way; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Issue	Submit event info by	For events taking place during
January.....	15 October	second week of January through first week of April
April	15 January	second week of April through first week of July
July	15 April	second week of July through first week of October
October	15 July	second week of October through first week of January

Bermuda

Southampton 26-28 Feb; Circle of Sisters 13; Bermuda Fairmont Southampton; www.circleofsisters.org

Canada

Ontario 12-14 Feb; Toronto Area Convention 6; Crowne Plaza Hotel, Toronto; www.torontona.org

Quebec 26-28 Feb; Ottawa Area Dopes on Slopes; Hotel-du-Lac, Mont Tremblant; www.ottawana.org

Denmark

Syddanmark 5-7 Feb; Syddanmark OSK Vi Kommer i Bedring; Præstegårdsskolen, Esbjerg; www.nasyddanmark.dk/

India

Karnataka 29-31 Jan; Bangalore Area Convention; Capital Village Resort, Madekeri; www.blacna.org

Mexico

Baja California 5-7 Mar; Region Baja Son Celebrando La Unidad Latino Americana; Hotel Rosarito Beach, Rosarito; www.bajason-na.org/Eventos_09.html

Philippines

Olongapo, Luzon 12-14 Feb; Pilipinas Regional Convention 15; Pier One Restaurant, Subic Bay; www.napilipinas.org

Thailand

Chonburi 19-21 Feb; Thailand Regional Convention 3; Erawan Hotel, Pattaya; www.na-thailand.org

United States

Alabama 19-21 Mar; Greater Mobile Area Convention 13; Renaissance Hotel, Mobile; event info: 251.591.7729

California 15-17 Jan; San Fernando Valley Area Convention 15; Marriott Burbank Airport, Burbank; www.nasfv.com

2) 19-21 Feb; Greater LA Area Heart-to-Heart Men's Retreat 2; Camp Whittier, Santa Barbara; www.greaterlarecovery.org

3) 19-21 Feb; Central California Regional Convention 18; Bakersfield Marriott, Bakersfield; event info: 661.817.6550

4) 1-4 Apr; Northern California Convention 32; Santa Clara Convention Center, Santa Clara; www.norcalna.org/nccna.php

5) 11-18 Apr; Southern California Regional Cruise 6; Carnival Conquest-Galveston, Texas; www.todayna.org/activities

Georgia 4-7 Feb; Georgia Regional Convention 29; Classic Center, Athens; www.grcna.org

Idaho 2-4 Apr; Southern Idaho Regional Convention 21; Sun Valley Inn, Sun Valley; www.sirna.org

Kansas 26-28 Mar; Mid America Regional Convention 27; Highland Hotel Convention Center, Great Bend; www.marscna.net

Kentucky 15-17 Jan; Louisville Area Convention 20; Crowne Plaza Hotel, Louisville; www.nalouisville.org

Maryland 16-18 Apr; Chesapeake/Potomac Regional Convention 24; Ocean City Convention Center, Ocean City; cprcnainformation@yahoo.com

Massachusetts 15-17 Jan; Boston Area Convention 14; Sheraton Framingham Hotel, Boston; event info: 617.953.7519

2) 26-28 Mar; Northeast Mass Area Convention 2; Boston Marriott Peabody, Peabody; event info: 978.564.5217; speaker tape deadline: 31 Jan; Northeast Mass Area; Box 79; Beverly, MA 01915

Michigan 1-4 Apr; Detroit Area Convention 18; Detroit Marriott Renaissance Center; event info: 313.613.0155; speaker tape deadline: 1 Mar; Box 32603; Detroit, MI 48232

Minnesota 16-18 Apr; Minnesota Regional Convention 17; speaker tape deadline: 15 Jan; Back 2 Basics Area; Box 295; Saint James, MN 56081; www.mnna17.com

Missouri 5-7 Feb; Mid-Missouri Area Cabin Fever Prevention Convention; Tan-Tar-A Resort, Osage Beach; www.cabinfeverconvention.org/

Nebraska 26-28 Feb; Eastern Nebraska Area Convention; Regency Lodge, Omaha; www.eastern-nebraska-na.org

New Jersey 26-28 Feb; Cape Atlantic Area Convention 20; Wildwood Convention Center, Wildwood; www.pearlofrecovery.com

2) 16-18 Apr; Ocean Area Convention 5; Quality Inn, Toms River; event info: 908.814.6735

New York 5-7 Feb; Finger Lakes Area Convention; Holiday Inn, Waterloo; event info: 315.246.0104

2) 12-14 Feb; Metro Area de Habla Hispana Convention 5; Crowne Plaza Hotel, White Plains; www.metroareadehablahispana.com

3) 26-28 Feb; Rochester Area Convention 16; Rochester Plaza Hotel-Downtown, Rochester; www.rochestemy-na.org

4) 12-14 Mar; Western Queens Area Convention 2; Melville Marriott, Melville; www.westernqueensna.com

North Carolina 26-28 Feb; Freedom by the Sea 9; Sea Trail Resort, Sunset Beach; event info: 910.228.1517

Ohio 19-21 Feb; Toledo Area Convention 13; Ramada Inn, Toledo; event info: 419.474.4704

2) 5-7 Mar; Legs Area Convention; Hilton Cleveland East/ Beachwood, Cleveland; event info: 216.224.5122

Pennsylvania 12-14 Feb; Mid-Atlantic Regional Learning Conference 26; Lancaster Host, Lancaster; www.marscna.org

2) 2-4 Apr; Greater Philadelphia Regional Convention 25; Radisson Valley Forge, Philadelphia; www.naworks.org

South Carolina 29-31 Jan; Upper South Carolina Area Convention 30; Hyatt Regency, Greenville; event info: 864.423.0419

2) 12-14 Feb; Greater Columbia Area Convention 9; Hilton Oceanfront, Hilton Head Island; event info: 803.446.6515

3) 26-28 Mar; GAP Area Convention 17; Quality Inn, Anderson; www.thegaparea.com

Texas 19-21 Feb; Tejas Bluebonnet Regional Convention 10; Embassy Suites, San Marcos; www.tbrcna.org

2) 1-4 Apr; Lonestar Regional Convention 25; Hilton DFW Lakes, Grapevine; www.lsrna.org

Utah 12-14 Mar; North by Northwest Las Vegas Area Dopes on Slopes; Cedar Breaks Lodge and Spa, Brian Head; speaker tape deadline: 1 Feb; North by Northwest Area; 6120 West Tropicana Avenue; #A16-PMB103; Las Vegas, NV 89103; www.nxnwana.org
2) 19-21 Mar; Northern Utah Area Convention 17; Marriott, Ogden; event info: 801.309.0087

Virginia 15-17 Jan; Peninsula Area Convention; Marriott City Center, Newport News; http://avcna.org/html/avcna_committee.html
2) 19-21 Mar; Tidewater Area Convention 10; Marriott Waterside, Norfolk; event info: 757.627.4200
Washington 11-14 Mar; Washington Northern Idaho Regional Convention; Ocean Shores Convention Center, Ocean Shores; www.wnir.org

NAWS PRODUCT UPDATE

Castilian

Twelve Concepts Poster
Los Doce Conceptos de Servicio en NA

Item No. CS-9077 Price US \$2.85

Poster Set of Seven

Now available to include Twelve Concepts poster
Item No. CS-9070 Price US \$8.80

Brazilian

The Group Booklet, Revised
Livreto do Grupo, Revisado

Item No. BR-1600 Price US \$0.81

German

IP No. 26:
Accessibility for Those with Additional Needs
**NA-Meetings und Süchtige mit
Behinderungen**

Item No. GE-3128 Price US \$0.21

Indonesian

IP No. 2: *The Group*
Kelompok NA

Item No. ID-3102 Price US \$0.26

IP No. 8: *Just for Today*
Hanya Untuk Hari Ini

Item No. ID-3108 Price US \$0.21

Norwegian

Sponsorship
Sponsorskap

Item No. NR-1130 Price US \$7.00



Swedish

Just for Today
Bara för idag

Item No. SW-1112 Price US \$7.70



Coming soon

Danish

Just for Today
Bare for i dag

Item No. DK-1112 Price US \$7.70



Finnish

It Works: How and Why
Se toimii: Miten ja Miksi

Item No. FI-1140 Price US \$7.70



Hindi

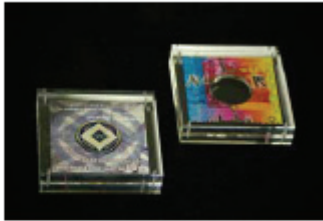
Basic Text

बारकोटिक्स एनॉनिमस

Item No. HI-1101 Price US \$7.50



Specialty products



Acrylic Medallion Holders

Stunning, crystal-clear medallion display embedded with artwork from the Commemorative Basic Text or, for a limited time, artwork inspired by WCNA 33 in Barcelona: Amor sin fronteras (or insert your own artwork). Displays front and back of medallion. *Limited supply.*

Item No. 6099 (Basic Text art) Item No. 6098 (WCNA 33 art) Price US \$25.00/each

CD-Case Calendar

Inspire love daily with this 14-month calendar (Oct 09 – Dec 10). Decorated with some favorite quotes from NA literature and unique artwork designed for WCNA 33: Amor sin fronteras – Love without Borders. *Limited supply.*

Item No. 9500 Price US \$7.00



Postcard Set

One dozen ways to share a message of love, recovery, and your own personal thoughts. This package includes twelve postcards inspired by the theme of WCNA 33 in Barcelona: Amor sin fronteras – Love without Borders. *Limited supply.*

Item No. 9501 Price US \$5.50

Just for Today

Gift Edition

A thoughtful gift with the title debossed in chocolate brown on a caramel-colored leatherette cover. Present and display this beautiful volume in a matching gift-box sheath.

Item No. 1114 Price US \$15.75



Statement of Ownership, Management, and Circulation

The NA Way Magazine (ISSN 1046-5421) is published quarterly. There is no subscription charge for this publication. The office of publication is at 19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311. Mailing address is PO Box 9999, Van Nuys, CA 91409. The editor is De Jenkins. *The NA Way Magazine* is owned by NAWS, Inc., a nonprofit corporation, and there are no other bondholders, mortgagees, or security holders. The status of this corporation has not changed during the twelve months preceding this filing.

Extent and nature of circulation	Average no. of copies in preceding 12 months	Actual no. copies as of 1-Oct-09
Total printed copies	37,375	37,500
Requested subscription—outside county	36,838	37,023
Requested subscription—in-county	0	0
Total requested subscription	36,838	37,023
Total free or nominal rate distribution	140	150
Total distribution	36,978	37,173
Copies not distributed (office uses)	397	327
Total	37,375	37,500
Percent requested circulation	99.6%	99.6%

Certified, correct, complete

